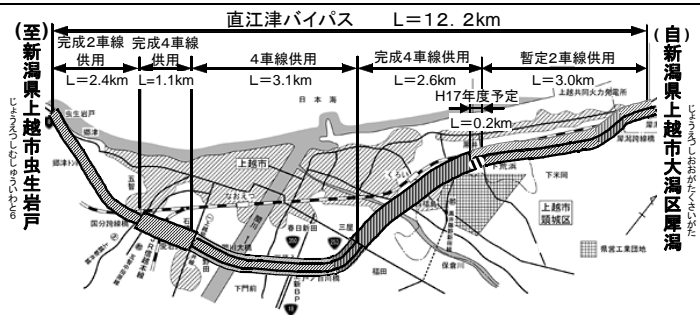


## 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担 当 課：道路局国道・防災課  
担当課長名：鈴木 克宗

<b>事業名</b> 一般国道8号 直江津バイパス <small>なおえつ</small>	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 国土交通省 北陸地方整備局
<b>起終点</b> (自)新潟県上越市大湊区犀潟 <small>じょうえつ おおがた さいがた</small> (至)新潟県上越市虫生岩戸 <small>じょうえつ むしゅういわと</small>	<b>延長</b> 12.2km	
<b>事業概要</b> 一般国道8号直江津バイパスは、上越市の骨格軸の一部を形成し、交通混雑の緩和、地域開発支援及び地域ネットワークの充実強化など重要な役割を担っている、延長12.2kmの4車線道路である。		
S41年度事業化	S42・S47・H10年度都市計画決定（H1・10年度変更）	S42年度用地着手 S43年度工事着手
<b>全体事業費</b>	360億円	<b>事業進捗率</b>
<b>計画交通量</b>	17,300～33,500台/日	
<b>費用対効果分析結果</b>	<b>B/C</b> (事業全体) 1.8 (残事業) 1.8	<b>総費用</b> (残事業)/ (事業全体) 110/550億円 (事業費: 105/512億円) (維持管理費: 5/38億円)
		<b>総便益</b> (残事業)/ (事業全体) 201/979億円 (走行時間短縮便益: 195/887億円) (走行費用減少便益: 1/67億円) (交通事故減少便益: 5/26億円)
		<b>基準年</b> 平成17年
<b>感度分析の結果</b> 残事業について感度分析を実施 交通量変動: B/C=1.7～1.9 (交通量±10%)    事業費変動: B/C=1.7～2.0 (事業費±10%) 事業期間変動: B/C=1.6～2.0 (事業期間±20%)    割引率変動: B/C=1.5～2.3 (割引率±1%)		
<b>事業の効果等</b> ・円滑なモビリティの確保（現道等における混雑時旅行速度の改善が見込まれる） ・国土・地域ネットワークの構築（日常活動圏中心都市へのアクセス向上が見込まれる） 他9項目に該当		
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 直江津バイパスは、地域交流の促進、交通混雑の緩和等に重要な役割を果たすことが期待されており、上越市をはじめとする3市の首長及び議長、70の団体・企業で構成される上越地方振興促進協議会等より早期整備の要望を受けている。		
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> バイパス沿線では工業団地、大型小売店舗など発生集中交通量の多い施設の立地が進み、直江津バイパスが全線供用したあとも、交通混雑は深刻化している。		
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 暫定供用区間を含み全線供用済みである。また、地元合意のもと用地買収は55%進捗している。		
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 下荒浜～黒井間（L=0.2km）については平成17年度に4車線供用する予定であり、残る犀潟～下荒浜間（L=3.0km）の4車線化、都市計画にあわせた幅員の拡幅及び交差点の立体化は交通状況を勘案しつつ、引き続き完成供用を目指す。		
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 新技術、プレキャストの積極的な活用及び大型化（長尺化）、建設発生土の有効活用、再生材を利用した舗装、路盤工の活用等により、コスト縮減を考慮している。		
<b>対応方針</b> 事業継続		
<b>対応方針決定の理由</b> 事業の効果並びに事業の実施状況を踏まえ、事業の継続が妥当である。		
<b>事業概要図</b>		



凡	例
■■■■■	供 用 中
■■■■■	事 業 中
▨▨▨▨▨	再 評 価 箇 所
▨▨▨▨▨	う ち 供 用 中

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。